

平成14年度・湖西水域のコハクチョウの越冬記録

木原茂喜

520-1212 滋賀県高島郡安曇川町西万木962-2

コハクチョウが湖西に飛来したのは、10月27日と平年並みであった。飛来後しばらく姿を消していたが、11月下旬頃に71羽の群れが六ヶ崎浜に遊泳しているのを観察した。今年度は、琵琶湖全域が記録的な大渇水にみまわれた。そのため、コハクチョウたちが浅い湖底に首を入れてさかんに水草を食べている光景がよく見られた。湖西水域は普段水深がある場所でも、水位が下がったため水草を食べていた。また、新旭町水鳥観察センター前の浅瀬が今まで以上に水位が下がったため、毎日終日餌を食べる姿が見られた。おもにネジレモ、エビモ、ササバモ等を食べているとおもわれる。

12月に入ると、数が急激に増加し、100羽以上が確認できた。130～140羽の大群が木津浜に遊泳していたこともある。

湖西で記録した最高渡来数は、12月24日の160羽であった。これだけの大群が来て

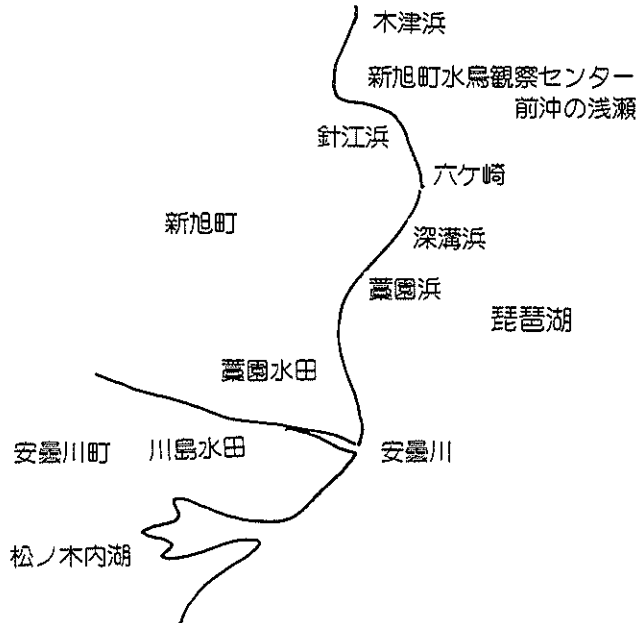


図1. 湖西地域におけるコハクチョウの観察地点。

表1. 平成14年度湖西西岸のコハクチョウ渡来数（各月の旬最高数を示す）

月・旬	湖岸	水田	松の内湖
10月下旬	7	0	0
11月上旬	6	0	9
11月中旬	19	0	0
11月下旬	71	0	0
12月上旬	91	0	0
12月中旬	125	0	0
12月下旬	160	84	0
1月上旬	74	108	56
1月中旬	38	106	83
1月下旬	0	102	83
2月上旬	0	120	105
2月中旬	0	76	98
2月下旬	0	11	54
3月上旬	0	21	48
3月中旬	20	0	47

注) 湖岸は木津, センター前, 針江, 六ヶ崎, 薬園, 水田は薬園水田と川島水田

くれたのがうれしかった。

その後、12月下旬から琵琶湖の岸辺で餌を食べる様子がまったく見られなくなっ



図2. 水田で採餌するコハクチョウ。

た。推測として考えられるのは、湖底の水草が減少したこと、つまり食べ尽くされたことが原因と考えられる。そのような理由で、湖岸近くの水田へ上がって二番穂や落ち穂を食べていた。コハクチョウは採餌場として平坦で眺望のきく藁園付近を選んでいる。毎年この水田にやって来るので、彼らはこの場所を知っているのかと思う。環境がよいことに、水田に水が張られていて、泥んこになって、餌を食べていた。このほか、安曇川町松ノ木内湖で12月～3月まで滞在していた。多い日には112羽が遊泳していた。ここでは水位が低くなったため、マコモの根(地下茎)がよく食べられていた。

夜間は内湖をめぐらし、朝の7:30～8:00くらいから一斉に飛び立ち、藁園の水田に通っていた。2月頃から群れが分かれ、安曇川町川島の水田でも数週間採餌していた。コハクチョウの群れの中にマガンが1羽観察された。コハクチョウは北帰前までに水田でしっかり餌を食べ、3月14日に北へ帰っていった。

なお、マキノ町の西田勇さんが、2月中旬にアメリカコハクチョウを観察しました。